

2024 年 2 月 28 日に開催された「2023 年度全学共通プログラム修了判定委員会及びデータサイエンス・プログラム WG 合同委員会」では、2023 年度の「データサイエンス・リテラシー（DSL）教育プログラム」の終了に当たって、その点検・評価・改善について審議した。概要は次の通りである。

2023 年度の「データサイエンス・リテラシー（DSL）教育プログラム」の終了に当たって、その点検・評価・改善について審議した。

また、最初に、2022 年度の本合同委員会議事録の確認があり、また、文部科学省の「数理・AI・データサイエンス」認定制度の 2023 年度申請に関する協力を謝意表明があった。

#### I. 2023 年度「DSL 教育プログラム」の実施結果について

- 2023 年度「DSL 教育プログラム」への参加者について説明があった。特に、今年度については、説明会の開催のみならず、各授業においても参加の呼びかけがあったことから、多数の参加申し込みがあったとの報告があった。
- 「DSL 教育プログラム」の 2023 年度における授業科目の履修者数について説明があり、ほぼ昨年度と同傾向にあることの説明があった。また、本プログラムにおける「法と情報」は 2 年次から履修可能であり、参加者数の増加により、次年度は更に増加するかもしれないとの意見があった。
- 本年度、4 名が本プログラムを修了したこと、及び、彼らに、文部科学大臣認定のプログラムであることを示すシールを付した修了証書が授与されたことの報告があった。

#### II. 2023 年度における「データ分析」について

本年度開講した「データ分析」について、実施報告及び今後の課題等について報告があった。その主たる内容は以下の通りである。

（実施報告）

- 前半の表計算ソフトウェアを中心とする操作演習では、説明を絞り各自の演習時間を確保するとともに机間指導をできるだけ増やすようにした。
- 後半のデータ分析手法等の学習においては、学生を指名し考えさせ、対話的に進める要素を取入れた。
- 課題の解説を講義の最初に行い、前時の定着を目指していたが、全体だけでなく個々に提出した課題にも必要に応じて短くコメントを入れるようにした。
- 課題に解答例等を準備して、課題取組時にすぐに確認し、自学できるようにした。
- 社会科学の学生を対象とする授業のため、法学、経済学、経営学、商学に関するデータ分析を使った分析をできるように本学独自の教科書を作成し、学生に興味を持ってもらえるように努力してきた。この教科書も、毎年改定を重ね（来年度で 3 版

目)、よりよいものにするようにしている。

- 担当者が、月に1回程度の会議を持ち、困っている点、うまくいった教授方法の共有などを行っている。
- 「授業評価アンケート」では、「授業内容、授業方法、授業の満足度」の質問項目において、各学科とも高い肯定評価の回答を得た。

(課題報告)

- 全体的には、基本的な事項をおさえる目的をほぼ達成できているが、受け身から自ら学ぼうとする姿勢を身につけさせる必要がある。
- 初心者で、授業についてこれていない学生には特に早い段階で学習の方法を確立するように支援しないと意欲を失い休みがちで続かなくなる。
- パソコンの基本操作（ファイルの作成、移動、管理）やコンピュータ（ネット）リテラシーを自学できる学習方法を早い段階でしっかりと定着させる。
- データ分析だけでなく、「情報リテラシー」についても学生に理解させ、SNSなどでのトラブルを起こさないように、巻き込まれないように、させることも必要である。

また、意見交換を行った結果、次のようなコメントもあった。

- 「データ分析」の授業だけでなく、他の授業においてもパソコンを使用する機会を増やすことが必要である。
- 「データ分析」で修得した内容を他の授業科目等での学習（例えば、PCで大きな統計データを扱うなど）や政策提言等に応用できる能力を付けさせることも必要である。

### III. 2024年度「DSL教育プログラム」の実施について

- 次年度の本プログラム実施に当たって、2022年度の本合同委員会で指摘のあった「プログラムにおける諸科目間のカリキュラム・ツリー」の作成について、その原案が提示され、意見交換を行った。
- 合意を得た「カリキュラム・ツリー」は、次年度の説明会等で利用することとした。
- 次年度(2024年度)の参加者募集についても、数回の説明会を開催するとともに、本年度と同様に、各授業において参加募集のアナウンスを行うこととし、参加申請用紙を準備することになった。

### IV. その他

- 特になし。

以 上